

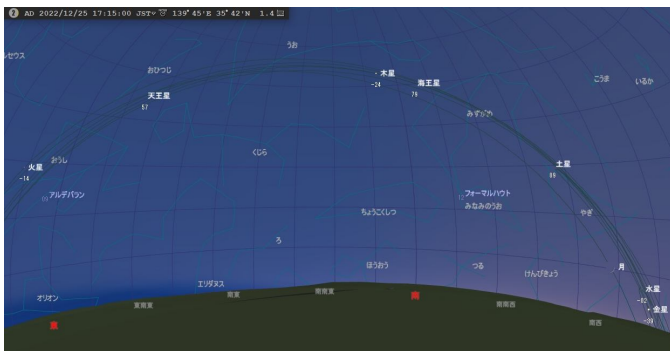
「月と惑星が全部見える日」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

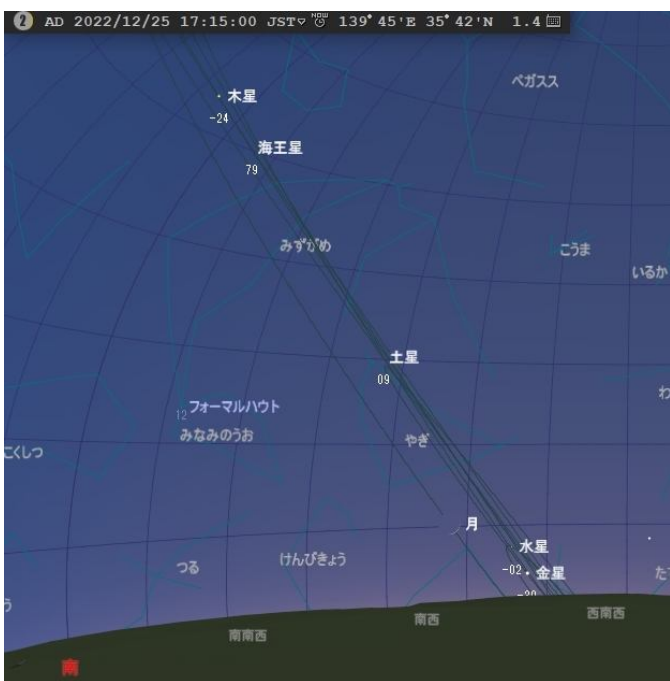
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

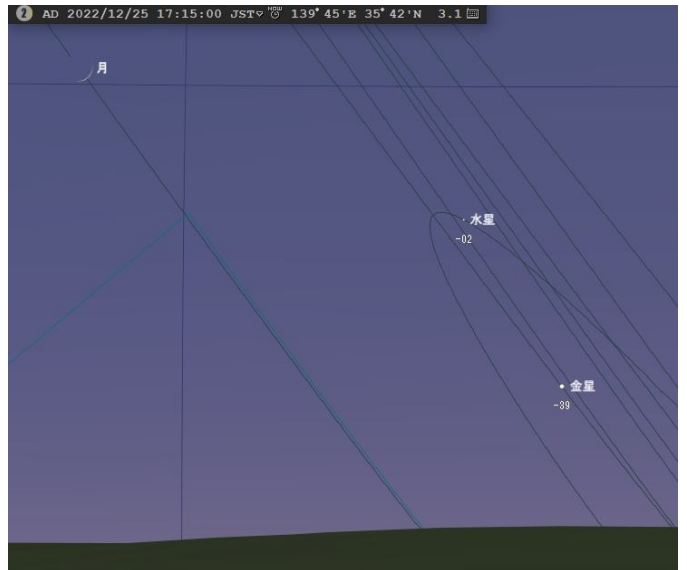
今の時期、夜空には明るい星が多い。もともと冬の星座は一等星が多く、空気も澄んでいるので、雪の少ない地方では天体観望に適している。それに加えて、今はさまざまな惑星は彩りを添えている。特にクリスマス前後に注目したい。



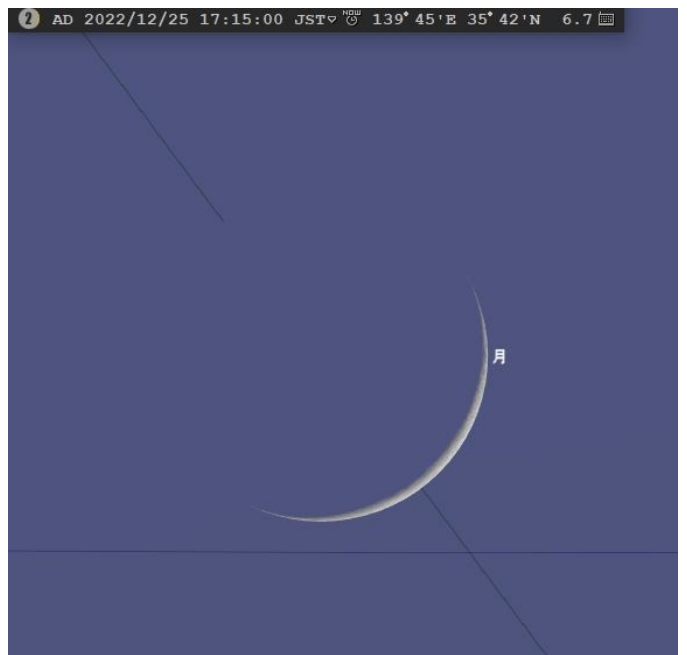
上図は、2022年12月25日の17:15(日没約1時間後)の東京の夜空だ。西に月齢約2の非常に細い月が見え、その右下(西側)に水星と金星が見える。上空には、月に近い順に、土星、海王星、木星、天王星、そして東に火星と、太陽系の月と惑星すべてが見えている。このうち天王星と海王星を除けば、すべて普通に肉眼で見える。天王星は辛うじて肉眼で見えるが、海王星だけは約8等級と暗く、肉眼では観望できない。



南西の空には、地平線に近い順に、金星・水星・月・土星・海王星・木星が、ほぼ一直線に並んで見える。



今回見える7つの惑星のうち、金星と水星は、地球よりも太陽に近い「内惑星」である。内惑星は、地球から見た位置が常に太陽に近く、日没直後か、日の出直前にしか見ることができない。特に水星は金星よりも太陽に近いので、明るい惑星の割に、観望が難しい。しかし今回は金星よりも水星のほうが太陽から遠く(視角度が大きく)観望しやすいのが特徴だ。



もう一つの見どころは、非常に細い月だろう。月齢は約2で、三日月よりも細い。輝面比も5%以下で、満月の800分の1程度の明るさしかない。相当に注意深く観察しないと見つけられないし、グズグズしていると、太陽を追いかけるように沈んでしまう。こういうことは非常に稀なので、少し視界の開けた場所で、是非観察してみたい。